

## その他に話し合われたこと

このようなことが話し合われました

●委員長 ●委員 ●事務局

●隔月で釧路管内の各戸に配布される情報誌「じゅう箱のすみ」に、自然再生への市民参加などの活動について記載していく予定。



情報誌「じゅう箱のすみ」

●釧路湿原自然再生協議会が大きくなって、小委員会の数も増えて縦割りになる心配がある。そこで、ひとつは情報の共有化、皆が同じ情報を持てるような仕組みを作ってはどうか。また、埋もれている情報を掘り起こして集めて、デジタル化し一箇所に置く。情報発信が決め手で、協議会内部に留まらず広く釧路、北海道、日本、そして世界へと発信していく取り組みが必要である。ついでには再生普及小委員会の中に情報のワーキンググループを作るか、或いは再生普及行動計画ワーキンググループの中に情報部会のようなものを作って方針を決めていくのか、ご検討いただきたい。

●小委員会の内部に新たなワーキンググループを立ち上げるような形にはどうか。

これを活動の大きな柱のひとつとして考えるべきである。

●情報の問題は本当に重要である。縦割りを少なくしようと様々な行政機関が協力しながら動き出しているが、まだまだ情報が埋もれているということも含めて情報の共有は大事である。情報ワーキンググループを立ち上げて、機動力のある実践的な体制を作ってやれるところから動き出してはどうか。

●知的財産として皆が共有しながら、皆で管理していくという方向に進むべき。

●こういう委員会では、また発言するのは何ヶ月か後になってしまったり、また、集まるとなると、1ヵ月、2ヵ月遅れてしまう。メーリングリストとか掲示板とかを早急に立ち上げて、議論を行ったり、逐次状況を知らせる形を作ってはどうか。

●前回の委員会で提言のあった地元FM局とかメディアに積極的に動きを伝える取り組みについてであるが、意向を打診したところ「いいですよ」という返事をいただいた。今後企画の中のひとつとして取り上げていただくよう話を進める。

●事務局の中でも電子会議室だとか掲示板だとかのメリット、デメリット、役割について検討している。メーリングリストについてはこちらの検討状況も含めて委員の方と打合せをして検討していきたい。



宮島岬観察会

## 第2回 再生普及小委員会 [出席者名簿 (敬称略、五十音順)]

### ●個人

井上 典子 [東京大学 先端科学技術研究センター 協力研究員]  
江崎 秀雄 [森の学習塾 代表]  
大山 仁美 [環境カウンセラー (事業者部門)]  
金子 正美 [酪農学園大学 環境システム学部 地域環境学科 助教授]  
高嶋 八千代 [北海道教育大学釧路校 非常勤講師]  
高橋 昭  
高橋 忠一 [北海道教育大学釧路校 助教授]  
辻井 達一 [財団法人 北海道環境財団 理事長]  
蛭田 眞一 [北海道教育大学釧路校 助教授]

### ●団体

釧路国際ウェットランドセンター [司口 幸治]  
釧路自然保護協会 [高山 末吉]  
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 [近藤 一博]  
釧路生物談話会 [一條 信明]  
釧路武佐の森の会 [会長 大西 英一]  
くしろネイチャーゲームの会 [代表 渡部 清紀]  
こどもエコクラブくしろ [佐々木 誠治]  
財団法人 日本生態系協会 [関 健志]  
財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ [首成 邦仁]  
特定非営利活動法人 釧路湿原やちの会 [佐藤 吉人]  
北海道中小企業家同友会釧路支部 [武田 佳朗]  
ボランティアネットワークチャレンジ隊 [代表 佐竹 直子]

### ●オブザーバー

参加なし

### ●関係行政機関

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [次長 熊谷 守典]  
環境省 東北北海道地区自然保護事務所 [所長 渡邊 綱男]  
北海道 釧路支庁 環境生活課 [課長 近藤 隆]  
北海道教育庁 釧路教育局 生涯学習課社会教育係 [主任 藤川 直子]  
釧路市 環境部環境政策課 [課長補佐 木村 俊宏]  
釧路町 産業経済課 [課長 中野 正人]  
弟子屈町 環境対策課 [課長補佐 永田 等]  
鶴居村 振興観光課 [課長補佐 土居 孝之]

# 釧路湿原 自然再生協議会

# 再生普及小委員会

## ニュースレター

編集・発行: 釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

発行日: 平成16年7月27日

No. 2



釧路川下り

## 平成16年5月17日(月) 第2回 再生普及小委員会が 開催されました

### ■開催概要

「第2回再生普及小委員会」が平成16年5月17日(月)、釧路地方合同庁舎で開催されました。委員会には29名(個人9名、団体委員12名、関係行政機関8名)が出席しました。(委員長:高橋忠一 委員——北海道教育大学釧路校助教授) 議事は、「1.各ワーキンググループでの検討状況について ①釧路湿原環境ガイド(児童生徒用)と人材バンク「プログラムリスト」について ②「釧路湿原保全と利用の総合ガイドマップ」について ③釧路川カヌー利用ガイドライン策定フロー(案)について 2.再生普及行動計画ワーキンググループの設置について 3.その他について」で、第1回再生普及小委員会(2月18日)の話し合いを受けて設立されたワーキンググループの状況や説明を中心に討議がなされました。



第2回再生普及小委員会(平成16年5月17日)



第2回再生普及小委員会(平成16年5月17日)

### 資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

<http://www.kushiro-wetland.jp/>

### ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。電話・FAX・Eメールにて事務局まで御連絡ください。

## 釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL(0154)23-1353

FAX(0154)24-6839

[E-mail] [info@kushiro-wetland.jp](mailto:info@kushiro-wetland.jp)

R100  
古紙配合率100%再生紙を使用しています



# 再生普及小委員会が、実施していること。これから実施したいこと。

## 各ワーキンググループでの検討状況について

第1回再生普及小委員会(2月18日)の話し合いを受けて設立された各ワーキンググループの活動状況について報告がなされました。

### ■ 釧路湿原環境ガイド(児童生徒用)と人材バンク「プログラムリスト」

釧路湿原環境教育ワーキンググループは、小学校3・4年生を対象とした小学校中・高学年用、5・6年生を対象とした高学年用、中学生を対象とした3種類の「釧路湿原環境ガイド」及び人材バンク「プログラムリスト」を制作しました。「釧路湿原環境ガイド」は釧路湿原に対して児童生徒に深く興味を持ってもらう目的でイラストや写真

を多く含めて作りました。人材バンク「プログラムリスト」は、児童生徒が詳しく知りたいときに、手助けしてくれる団体や個人を探せるようになっています。これらの資料は、平成14年12月から各部会に分かれて構想案を検討してきましたが、平成16年3月に釧路管内の小中学校に配布されました。



「釧路湿原環境ガイド」と人材バンク「プログラムリスト」

#### このようなことが話し合われました

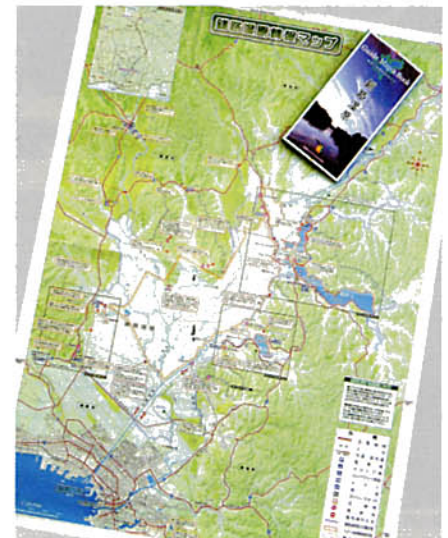
- 委員長 ●委員 ●事務局
- 教師を対象とした指導用資料の作成については具体的な予定はないのか。
- 教師用ガイドについては児童生徒向け冊子の縮小版を中央に、その周辺に詳細情報を載せたものを検討している段階。
- この冊子以外のメディアの提供、例えばホームページで紹介するといった計画はあるか。
- 「プログラムリスト」については、北海道教育

大学釧路校の環境教育情報センターのホームページに載せる事を検討中。  
●こうした教材ができたことは大きな前進である。今後、必要に応じて質の向上を図り、継続していくことを検討して欲しい。人材リストがうまく活用されることが大事で、様々な問い合わせに対する窓口、コーディネートする受け皿があるとよい。  
●大変先駆的な事例になる。このような資料を

どこかに集積できるよう国でもやっていただいて、それをフィードバックしてここで使えると一層いいものができるのではないかと。  
●資料は、大変分かりやすく良いが、活用する先生たちの姿勢、指導が大事である。また、小学生・高学年用のものに湿原の地図が入っていないが位置を説明できるように入れたほうが良い。

### ■ 釧路湿原 保全と利用の総合ガイドマップ

平成14年8月の釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会、現地に入る際の規制が資料によってまちまちで分かりにくいという指摘を受け、環境省東北北海道地区自然保護事務所を事務局としたワーキンググループは「釧路湿原 保全と利用の総合ガイドマップ」を作成しました。



釧路湿原 保全と利用総合ガイド

この地図とガイドマップは、釧路湿原利用者をはじめとする関係者に対する普及啓発、さらに理解をより一層深めてもらうことが狙いで、中学生でも読めるようにルビをふりました。地図の片面は規制の図面、裏面は利用の図面になっています。規制のマップには自然公園法、鳥獣保護法、文化財保護法、河川法などの規制等を記載。利用のマップには利用のビューポイント、博物館施設、キャンプ場、ラムサール条約登録湿地の指定区域も記載しました。ガイドブックは、のんびりマップで、手書きの地図にどこでどんなものを見ることができるか、面白そうな情報、湿原のことが勉強できるコラム的なもの、アクセス情報として地図に載っている施設、交通機関、アクティビティも載せ、発行は釧路湿原自然再生協議会として、今夏に販売を予定しています。できればその売上金の一部を釧路湿原の保全に役立てることを検討していきたいと考えています。

#### ■ 目的

釧路湿原に関するガイドマップは、これまでも様々なものが作られているが、保全に関する各種規制地域及び利用マナーを含む自然情報を網羅的にまとめたものではなく、湿原利用者に対し知ってもらいたい情報が十分に伝えられてこなかった傾向がある。このため、釧路湿原の保全と利用に関する共通認識の形成を目的として、これらの情報を分かりやすく、かつソフトに伝える総合的なガイドマップを作成し、湿原利用者をはじめとする関係者への普及啓発を図り、釧路湿原に対する理解をより一層深めてもらうことをねらいとする。

#### このようなことが話し合われました

- 委員長 ●委員 ●事務局
- インターネットや電子媒体などを活用して、この地図を配信するべきで、インターネットを見てこうした地図を買ってくれるのではないかと。色々な資料を束ねる仕組みができればいい。
- 総合マップのインターネット上での配信については前向きに考えたい。

### ■ 釧路川カヌー利用ガイドライン策定フロー(案)

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部に事務局を置くワーキンググループは、「釧路川カヌー利用ガイドライン」を制作。カヌーを利用する際の現地情報、自然環境の保全、河川の適正利用を普及啓発するため、利用者や一般市民の声も聴取しながら制作が進められています。このガイドラインは本文とマップからなり、それらを折りたたんで携帯可能な概要版も

作ります。本文は、1.策定の趣旨 2.安全面 3.自然を守りながらカヌーを楽しむためにといったことと普及啓発やフォローアップについて書く予定です。マップには、事故発生箇所、注意箇所、発着場所、駐車場所、トイレ、入川ボックス、国立公園の特別保護地区、タンチョウへの配慮区間を記載する予定です。

#### このようなことが話し合われました

- 委員長 ●委員 ●事務局
- 入川ボックスというのは入山届みたいに住所や名前、行き先などを書くのだとすれば、その日の行動だからできるだけ早く回収しなければ意味がないのではないかと。
- カード型だとその通りで、リアルタイムということ考えると、カードの収集の仕方をもう少し考えたほうがいいのではないかと。
- 管理方法については検討中である。将来的には例えば携帯電話やパソコンで今から入りますよと入力することなどのアイデアもあるので検討したい。

●橋の名前は全部入れておいてもらったほうが、非常に目印になるのでいい。  
●カヌーに乗ってる人が橋の名前が分かるのか。  
●地図にキロ表示を入れてあるのでこれとだいたい場所とを照らし合わせていただく。天塩川などは橋桁のところに〇〇橋〇〇キロメートル地点という表示をしている例もあり、将来的にはそこまでもっていくことを検討していきたい。

### 釧路川カヌー利用ガイドライン策定フロー



### 「再生普及行動計画ワーキンググループ」の設置

前回の再生普及小委員会で「市民参加環境教育の推進に関する10の提言」に関する行動計画を作成するワーキンググループ」を新たに立ち上げることになったが、このワーキンググループの設置について、経過報告、趣旨を含めた説明がなされました。

#### このようなことが話し合われました

- 委員長 ●委員 ●事務局
- 「市民参加環境教育の推進に関する10の提言行動計画ワーキンググループ」を「再生普及行動計画ワーキンググループ」と名称を変えた。今年4月に文書で小委員会の委員に参加を要請し、5月7日に締め切った。このメンバーに固定することなく、検討テーマに応じてフレキシブルに参加者を招き議論を深めていきたい。イベント、会議、関係団体による諸活動、情報発信、自然再生など幅広く取り組んでいきたい。行動計画に完成版はなく、常に評価・見直しを行うことになる。できるだけ予算を掛けず手づくりの方法を考えて実行したい。2ヵ月に1回程度ワーキンググループを開催し、小委員会に検討状況を報告する。
- 来月からこのワーキンググループに立上がっていただいて、来年の春から夏にかけてパブリックコメントも実施するとすれば、来年の夏あたり具体的な行動計画第1案が作成されるという予定である。このワーキンググループの特徴として必要であればワーキンググループの構成員

#### ワーキンググループの構成

- 江崎 秀雄委員 (森の学習塾代表)
- 金子 正美委員 (酪農学園大学助教授)
- 新庄 久志委員 (釧路国際ウェットランドセンター主幹)
- 釧路武佐の森の会 (会長/大西英一)
- ボランティアネットワーク・チャレンジ隊 (代表/佐竹直子)
- NPO法人 釧路湿原やちの会 (理事長/杉山伸一)
- 釧路湿原国立公園ボランティア・レンジャーの会 (代表幹事/山口功 他)
- 事務局 (東北道地区自然保護事務所)

でなくとも参加してもらうことを前提にして動き出そうということである。  
●湿原に継続的に関わる学びの機会をつくる、ということに関わって来るが、例えば、自然再生に興味を持っていたり、将来関わりたいと考えている大学の学生や大学院生が結構いる。そういう学生たちのインターンシステム、或いは研修生みたいなことを検討していただきたい。  
●キラコタン岬と宮島岬の人の入り込みの取扱いについて検討していただきたい。  
●湿原の一部はどんどん破壊されているという状態にある。利用の方が先行しているが保全が先である。湿原の寿命を長く持たせながら利用をしていくべきである。  
●ワーキンググループの方にこういったご意見を集めていただいて、第1回目の立ち上げに際しての検討事項にさせていただくというのが目的であり、ワーキンググループを立ち上げたときの話し合いの素材にさせていただきたい。